

「超高齢社会における生活リスクとその改善」

日時:2015年3月24日(火)13:00~16:30

会場:ホテルアークリッシュ 4F テラスルーム

主催:豊橋技術科学大学(建築・都市システム学系,
安全安心地域共創リサーチセンター,リーディング大学院,
次世代シミュレーション技術者教育推進室)

後援:環境共生技術研究会

【趣旨】

近年,高齢者は加齢に伴う筋力や感覚の衰えに伴い様々な生活(健康)リスクに直面し,室内における様々なバリア(空間的なギャップだけでなく視覚や聴覚など感覚のバリアも含む)が原因でけがや病気あるいは死に至るケースが増えている。とりわけ,日本においては超高齢社会に対応した安全・安心で健康・快適,かつエネルギー消費の少ない住環境システムの開発とその実証研究が極めて重要になっている。本シンポジウムでは,室内環境の評価・制御・設計,感覚の機構の解明・評価,生体現象のセンシングなどの分野で世界的な研究者による研究開発の動向に関する講演を通して,今後の課題に関する議論を深める機会としたい。

【プログラム】

[司会進行]豊橋技術科学大学大学院 建築・都市システム学系助教 近藤 恵美

第1部

13:00 主催者あいさつ・主旨説明

松本 博 教授(豊橋技術科学大学大学院 建築・都市システム学系)

13:20 基調講演「R&D on thermal comfort, indoor air quality and energy saving in buildings」

Prof. Arsen Melikov (デンマーク工科大学, 同時通訳あり)

14:20 「高齢者の睡眠に及ぼす季節の影響」

都築 和代 博士

(産業技術総合研究所・ヒューマンライフテクノロジー研究部門グループリーダー)

14:50 休憩(コーヒーブレイク)

第 2 部

15:10 「人間の視覚とカラーユニバーサルデザイン」

中内 茂樹 教授(豊橋技術科学大学大学院 情報・知能工学系)

15:40 「超高齢社会に向けた生体センサ技術」

澤田 和明 教授(豊橋技術科学大学大学院 電気・電子情報工学系)

16:10 総合討論(進行:松本 博 教授)

16:30 閉会のあいさつ

16:30 閉会

【報告】

シンポジウムは 2015 年 3 月 24 日にホテルアークリッシュ豊橋で開催された。当日は、年度末で会場が学外ということもあって、参加者は当初予想した人数よりやや少ない約 30 名であった。



Arsen Melikov教授 (デンマーク工科大学)

本学建築・都市システム学系の近藤恵美助教の司会で最初に主催者を代表して、本学建築・都市システム学系の松本博系長から挨拶を兼ねてシンポジウムの趣旨説明があった。

その後、基調講演として、デンマーク工科大学のアルセン・メリコフ教授から「建物における熱的快適性、室内空気質および省エネルギーに関する最新の研究」について基調講演があった。メリコフ教授は、熱的快適性や室内空気質の制御・評価、空調システムの省エネルギー技術に関する世界的な権威で、本学リーディング大学院のアドバイザー教員としてプログラム履修生の研究指導や研究打合わせ等で本学に滞在中にゲストスピーカーとして特別講演をしていただいた。英語での発表のため、同時通訳による発表となった。非常に興味深く分かりやすい講演であり、本シンポジウムの趣旨に関連する研究の今後の新しい展開への示唆に富む内容であった。

次に産業技術総合研究所の都築和代博士から、「高齢者の睡眠に及ぼす季節の影響」という題目で季節(主に温熱環境要素)が高齢者の睡眠の質に及ぼす影響と快適な睡眠を得るための条件について講演があった。コーヒブレークを挟んで、本学情報・知能工学系の中内茂樹教授より、「人間の視覚とユニバーサルデザイン」に関する講演があり、人間の色覚異常のメカニズムと色覚異常を擬似的に体験できる特殊な眼鏡の開発とその応用に関する話題提供があった。最後に、本学本学電気・情報工学系の澤田和明教授から、「超高齢社会に向けた生体センサ技術」に関する講演があり、最新の生体センサの開発状況とその応用に関して刺激的で興味深い話題提供があった。



都築和代博士（産業技術総合研究所）

中内茂樹教授（本学情報・知能工学系）

澤田和明教授（本学電気・情報工学系）

最後のセッションで、全体の講演に対する総合討論があり、超高齢社会における様々な問題点やその改善に関する熱心な質疑応答があった。これを契機として、異分野融合による研究連携を通して新しい研究の進展が期待できるシンポジウムであった。